

旭 農

PTA ニュース

編集
発行

北海道旭川農業高等学校PTA事務局

2022年12月23日
(令和4年度)
No.142

クラブ後援会長より

クラブ後援会長

一ツ柳 隆志



保護者の皆様方におかれましては日頃より旭農高PTA・クラブ後援会活動に多大なるご理解とご協力を頂き心より感謝申し上げます。

令和四年度がスタートし、今もお収束の見通しがつかないコロナウイルス問題や、私達の生活に圧迫をかける物価高騰問題、国外でも様々な問題で日本に影響がありなかなか落ち着いた生活が出来ていないのが現状です。

学校生活では校長先生をはじめ教職員の方々や保護者の皆様のご配慮のおかげもありまして授業や部活、学校祭や見学旅行などの各学校行事、インターシップなど無事に出来たことに感謝申し上げます。まだまだ限られた制約のなかでの学校生活ですが、生徒達が伸び伸びと高校生

活を送れますことを切に願っております。

三年生は高校生活も終盤に近付いてまいりました。就職や進学に向けて旭川農業高校で学んだ事を生かし、それぞれが持つ夢や目標に向かって自信をもって羽ばたいて欲しいと願っております。社会に出れば学校では学ばなかった初めて経験することがたくさんあると思いますが、「我達人」(がほうじん) まずは人と会うことから全てが始まり、人との出会いによって人生は大きく変わる可能性があります。あの人が嫌、この人とは合わないと思線を引きくのではなく、そんな考え方もあるのか、こんな人もいるのかと一度受け入れてみることも必要な事だと思ひます。どうか柔軟な心で視野を広げ色々な人達と出逢いたくさんの事を学んでみて下さい。

二年生、一年生は勉強や部活に一生懸命励んでいることと思ひます。入学して新しく出来た友達や仲間、先輩後輩、先生方と共有する時間はこれからの学校生活においても大切な学びです。また、三年間と限られた高校生活ですので、何事もやらないうちから人間、苦手な事も嫌な事も恐れずチャレンジしてみて下さい。「冷暖自知」(れいだんじち) 冷

たいか暖かいかは自分で触らなければ分からない様に、まずは身をもって体験し感じてみることも必要な事です。経験こそが力なり。一日一日を大切に過ごして下さい。

私達PTA・クラブ後援会は会議や研修会、各行事等の中で会員の皆様や先生方との交流も少なくなつてしまひ親睦会も開催出来ていないのが現状で非常に残念でなりません。今後、様々な場面において沢山の会員皆様にお会いできることを楽しみにし、ご意見や情報を頂き、学校と連携しながら活動を進めてまいりたいと思ひます。そしてこれからも変わらず子供たちの糧となる活動が必要であり、日々子供たちが成長する中でより多くの事を学びより多くの事を吸収出来る様に、また、健康やかな成長を見守るためにも地域、学校、保護者の皆様が協働する活動にどうぞご協力をよろしくお願い致します。

今後の活動といたしましては、令和五年度に予定をしています「創立一〇〇周年記念式典」へ向け各役職の方々が準備を進めているところで御座います。無事に開催できるよう努めてまいりますので、今後ともご理解ご協力頂きますようよろしくお願い申し上げます。

保護者の皆様には、平素から本校教育活動の推進に格段のご理解とご支援を頂いております。師走を迎え、学校では年度のまとめと次年度計画に向け一年間の中で最も大切な時期を迎えています。皆さんとともに、子どもたちが着実に成長していけるよう、一段上の充実を目指す教育を展開していきたいと思ひます。保護者の皆様には、学校評価アンケートのご協力をいただいております。生徒、保護者、地域の声を丁寧に拝聴させていただき、次年度につなげていきたいと考えております。

「二人一台端末」導入の背景

校長 野村 博之



保護者の皆様には、平素から本校教育活動の推進に格段のご理解とご支援を頂いております。

ことに厚く御礼申し上げます。師走を迎え、学校では年度のまとめと次年度計画に向け一年間の中で最も大切な時期を迎えています。皆さんとともに、子どもたちが着実に成長していけるよう、一段上の充実を目指す教育を展開していきたいと思ひます。保護者の皆様には、学校評価アンケートのご協力をいただいております。生徒、保護者、地域の声を丁寧に拝聴させていただき、次年度につなげていきたいと考えております。

さて高校では、現一年生から新学習指導要領に伴う学習がスタートしました。保護者の皆様が新しい学習として実感されているのが、BYOD (Bring Your Own Device) と称される個人が所有するPCやタブレットなどの端末を学校に持ち込んで活用している点だと思ひます。

このような教育が求められるようになった背景についてご説明します。

行っています。二〇一八年に実施されたPISA2018では、日本の「読解力」が十五位に急落し、他二分野との開きがあり話題になりました。実はPISA2015より、コンピュータを用いる形式になりました。そして、PISA2018では、コンピュータの特性を生かした問題が出題されるようになり、「読解力」もいわば「デジタル読解力」を測定するようになっていきます。

PISA2018では、質問調査も実施しています。生徒のICTの活用状況については、日本は、学校の授業での利用時間が短く、学校外では多様な用途で利用しているものの、チャットやゲームに偏っている傾向があります。日本は学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、「利用しない」と答えた生徒の割合は約八〇%に及び、OECD加盟国中最下位との分析結果が出ています。

以上のことから、国は「デジタル社会形成基本法」を策定し、その重点計画にGIGAスクール構想が盛り込まれ一人一台端末の導入の環境が整備されました。高校は、個人の端末を持ち込んで行う方針が示されました。とは言っても文房具としては高価な物です。学校教育の中で多く活用し生徒の能力を高めていくことが求められます。現在、官民あげて、デジタル教材の開発と普及に力を入れています。本校でも先進的な取り組みに関する研究を進めているところです。今後、学年進行とともに活用の幅が広がっていくものと考えています。

令和五年もさらによい年となるよう、毎日毎日積み上げてまいります。今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願いいたします。

令和四年度 生徒会役員及び農業クラブ役員

◆新生徒会役員

会長 齊藤 幸音 (2F)
副会長 小山夏那生 (2M)
副会長 佐藤 小瑚 (2M)
書記 林 憲蔵 (2A)
書記 中島 瑠梨 (1M)
会計 佐々木綾香 (2A)
会計 市瀬 優奈 (1L)
監査 鎌田 倖大 (2F)
監査 山内 里緒 (2L)
監査 古川 そら (1L)
保健安全委員長 高井 優唯 (1M)
風紀委員長 土門 美里 (1L)

◆新農業クラブ役員

会長 三島 悠斗 (2M)
副会長 石田 凜花 (2M)
副会長 木村 凜音 (2M)
書記 渡邊 真彩 (1A)
書記 星野 綾菜 (1L)
会計 前中那津美 (1M)
監査 小松 沓成 (2M)
監査 小澤 己弥 (1A)
監査 川村玲衣奈 (1M)



▲新生徒会役員



▲新農業クラブ役員

第七十三回日本学校農業クラブ 全国大会に参加して

農業科学科二年 山内 優斗

十月二十六日から二十七日に北陸三県で行われた農業クラブ全国大会に参加しました。大会には本校からプロジェクト発表会に四名、平板測量競技会に四名、農業鑑定競技会に五名、代議員会に一名が参加しました。私は農業鑑定競技会に出場しました。初めての全国大会で高まる鼓動を抑えながら気持ちを落ち着かせようとしました。日々の勉強に励みま

学んできたことをすべて出し切りましたが入賞することができず少し後悔の残る大会となっていました。鑑定競技と一緒に参加した三年生の柴田さん、和久さんが優秀賞に入賞しました。今回の大会で私は入賞することはできませんでしたが来年の熊本大会では最優秀賞を目指し、自分自身の成長と未来の旭農生に鑑定競技への希望を紡げるように日々努力しようと思いました。

日本学校農業クラブ全国大会出場者
プロジェクト発表会
分野Ⅱ類 優秀賞受賞
窪田 杏 (3M)
吉野 僚 (3M)
工藤 璃杏 (3M)
西本 希恵 (3M)
矢内 琴音 (3F)
石田 大斗 (3F)
太田 碧海 (3F)
野崎 潤也 (3F)

平板測量競技会出場

農業鑑定競技会
分野農業出場

分野食品優秀賞受賞
柴田亜梨沙 (3M)

分野森林出場
鈴木 歩夢 (2F)

分野生活優秀賞受賞
和久 結葉 (3L)

分野生活出場
依田 ナナ (2L)

式典旗手・秋季代議員会参加
中井 明斗 (3A)

平板測量
会場にて▶



▲プロジェクト発表会場にて

令和四年度旭川農業高校 PTA役員研修会

令和四年度十一月十七日(木)、第二回PTA・クラブ後援会役員会終了後に本校を会場に令和四年度旭川農業高校PTA研修会が次の通り実施されました。

農業科学科…お米のパッケージデザイン作成と商品作り
食品科学科…食品加工体験(ソーセージ編)
森林科学科…木工体験(携帯用スピーカー作り)

生活科学科…ハーバリウムとUVレジンアクセサリー作り

PTA研修会では保護者の皆様方に生徒役として各学科を選んでいただき、普段、生徒たちが専門授業で学び身につけた技術を、生徒たちが講師となり研修を行いました。



ました。次年度も是非、多くの方々にご参加頂き、生徒たちの学びの深さや各学科の特徴等にふれていただければと思います。

歴史を五感で学ぶ 見学旅行

二年食品科学科 大島 美里

私たちは、十月三十日から十一月二日までの四日間、様々な視点で歴史を学び、そして友人や先生方と一緒に過ごすことができました。

歴史といえば京都。古くから守り続けられている建造物を実際に見ると、その美しさに感動しました。また、それぞれの場所での風景や街並みは、普段感じることのできないもので忘れられない思い出となりました。他にも食では、地元とは違う食材や料理などを頂き、食の文化を堪能することができました。

今回の見学旅行は感染症対策ということで、予定より一日短くなってしまいました。私にとって貴重な経験となりました。

様々な学びや体験を経て、たくさん驚きと発見がありました。この四日間、感染症に気を付けながらの見学で不安が多々ありましたが、笑顔の絶えない楽しく歴史と触れあった見学旅行でした。

文化部活動報告

演劇部部长

食品科学科三年 高沢 稜太



三年間を振り返ると様々な制約があつた中、精一杯楽しくそして、真剣に演

劇に向き合ってきたと感じています。

今年度は氷点華や学校祭、高文連といった活動を中心に、部員一同心血を注いで取り組んできました。氷点華では他校の演劇部員と共に、数年ぶりの舞台を市民の皆様へ届けることができました。高文連では結果は実らなかったものの、部員の協力と先生方のお力添えもあり、全力で楽しみ、旭農らしい演劇を作り上げることができました。私が部長としてできたことは数少ないですが、周りに支えられ

やり遂げるこ

とができたと思

っています。

多分…。最後

に今までお世

話になりまし

た保護者の皆

様と先生方へ、



公演を終えて

書道部部长

農業科学科三年 藤田望々果



今年度は旭農が上川支部高文連の当番校でした。人数が少な

い私たちは所々

戸惑うところもありつつ、顧問の高

野先生をはじめとする、沢山の先生

方に助けられ無事高文連を終えるこ

とができました。結果は人それぞれ

で、努力した分作品に反映され良い

評価をもらった人や、あまり作品に

取り組めなかった人の明確な差が明

らかになった高文連でした。批評で

は、西高校の書道部顧問の先生にし

ていただき、いつもとは違う視点で

自分の作品と向き合うことができました。

全道大会でもいい評価を頂け

ればなと思っています。今回の高文

連を通して、それぞれ書に対する向

き合い方を改めることができましたと思



全道出展作品

吹奏楽部部长

生活科学科二年 尾形 奏音



今年もコロナ禍ではありましたが、高文連、吹奏楽祭、旭川地区コンクール

に出場させていただきました。その

中でも旭川地区コンクールでは、ゴ

ールド金賞を獲るという目標に向

け、日々の練習や夏合宿で部員一丸

となつて「旭農サウンド」を追求し

ました。結果はゴールド金賞だった

ものの、惜しくも全道大会への切符

は逃しましたが、これまでの練習の

成果を出し切り、良い演奏をホール

に響かせることができました。来年

こそはゴールド金賞を獲って、全道

大会に進めるよう、頑張っていきたいです。

これからは一年の集大成である、

定期演奏会に向けて、部員一丸とな

って日々の練習に励んでいきます。

います。三年間ありがとうございました。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

茶道部部长

食品科学科二年 荻野 未稀



私たち茶道部は、今年も新型コロナウイルスの影響で学校祭

でのお茶会が中止になつてしまいましたが、護国神

社で行われる研究会は無事に参加す

ることができました。そのため、研

究会に向け日々練習に励み、自分の

お点前に磨きをかけることができました。

毎週水曜日には講師の先生にきて

いただき、より細かな指導をしてい

ただいており、私たちも日々の成長

を感じることができています。三年

生が引退してしまい、人数が少なく

なつてしまいましたが、一日も早く

コロナが収束して、学校祭で私たち

のお点前を見ていただける時が来る

まで一生懸命練習に励んでいきたい

と思います。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

写真部部长

食品科学科三年 大武 夢歩



今年度高文連

上川支部大会

で、最優秀賞一

作品、銅賞二作

品、入選四作品

美術部部长

生活科学科三年 齋藤 陽向



八月二十九日

から三十一日

今年も高文連が

ありました。こ

の日の向けて、

私たち美術部一同は夏休みを中心と

となり、団体の部も二位の好成績を収めました。さらに全道大会においても、優秀賞一作品、入選二作品、佳作一作品となり、このうち一年生の中野さんが来年度の総文祭への出場権を得る快挙を上げてくれました。個人的には最後の高文連で、すごく悩みながら、ひたすらシャッターを切った結果、全道優秀賞をいただき、本当に嬉しかったです。被写体となつてくれた友人、写真選定に協力いただいた先生方、そして三年間写真の知識や技術を磨いてくださった顧問の小山先生、本当にありがとうございました。今までの経験を活かして今後も写真を撮り続けていきたいと思っています。



全道優秀賞 題「思いよ、届け！」

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

して、作品制作を行ってきました。

私は、今年で最後の大会だった為、前向きなテーマにし、今までの区切りをつけられるような作品にしました。惜しくも最後にして、入選を逃してしまいました。が、三年間に渡り、賞をいただけたことを大変光栄に思っています。また、最後まで支えて下さった方、応援して下さいました方々のお陰で得られてきた成果だと思っています。心から感謝申し上げます。

あれから三か月経ちましたが、美術部の活動は、個人戦なので来年の高文連までに今からスキルを上げるには、自分自身の強い意志と努力が鍵だと思っています。現役の部員達には、そこを努めていただき、先輩たちの意志を継いで、入賞する部員が一人でも増えればと思います。卒業した身ですが、これからも応援しています。私は卒業した後、自身の世界観を大切にする様な作品を創っていいと思います。改めて今まで応援して下さいました皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。



全道出展 絵画・油彩 題「Good Luck」

自然科学部部長

農業科学科二年 三田 元稀



私たち自然科学部は現在、三年生一人、二年生二人、一年生三人で活動しています。

九月二十九日に行われた理科研究大会に参加してきました。今回は、記録が足りなく、発表はしませんでした。他の高校の発表はとても素晴らしく学ぶことがいろいろありました。中でもセミの誕生日を予想できるかという北海道旭川北高等学校で発表されたもので題名から表とは別に、「アンモナイトは楽しいーライフワークについて考えようー」という北海道旭川南高校の教諭の森伸一先生の講演発表では、自身で採集されたアンモナイトの化石を見させていただき、触らせてもいただきました。またアンモナイトの復元図や分類、アンモナイトに対してのクイズを行いました。どれも楽しく参加できました。

来年は、しっかりと記録を取り、高文連で発表し、入賞したいです。



放送局局長

食品科学科二年 佐藤 小瑚



今年度、放送局はNHK杯放送コンテストと高文連放送コンテストでいずれ

も全道大会まで進むことができました。Nコンでは、ラジオドキュメント部門と研究発表部門で支部四位入賞。高文連では、オーディオメッセージ部門で支部三位となり、全道大会参加校のみに権利が与えられるCM部門にも作品を出すことができました。全道大会では入賞できませんでしたが局員全員で協力して作品を作ることで、構成を考えたり、取材の大変さを知ることができました。引き続き、校内ではお昼の放送を継続していくとともに、来年度は計画的に動いて、面白い作品を作り、良い成績を残したいと思っています。



お昼の放送

図書局副局長

生活科学科二年 佐藤あかり



七月二十一日、実業高校で行われた高文連図書委員研究会に、一年生と二

年生で行ってきました。高文連図書委員研究会では、午前には学校図書館についての講演を聴き、午後はいくつかのグループに分かれて活動しました。午前の講演では学校司書をされていた成田先生が講師としてお話をしてくださり、図書館をよりよくする方法について学ぶことができました。図書館にたくさんの方が気軽に来て、活気のある図書館を作るために参考にしたいと思いました。

午後は、ポップ作り、俳句、手作りグッズ作り、ビブリオバトルの四つの分科会にわかれて活動しました。私は俳句の分科会に参加し、好きな俳句を発表したり、作った俳句を披露したりしました。普段行うことができない、とても良い経験になりました。

来年度は、私達が図書委員研究会の当番校を努めるので、今回のような有意義な活動ができるよう、局員一丸となって取り組みたいです。

ボランティア局局长

食品科学科三年 川井 心春



コロナ禍の影響が続いていたボランティア活動でしたが、今回上川支部ボラ

ンティア研究大会の当番校を務めることで、初めて他校と交流することができました。他の学校がどんな活動をしているのか知らなかった私たちは、驚き、発見の連続でした。どの学校もコロナに負けない活動を行っており、改めて交流することができて良かったと感じました。

講師を招いた講演会では中絶を止める活動や命の大切さについてお話をいただきました。講演後の基金箱作りでは紙パックを再利用し、包装紙で飾り付けをし、かわいい基金箱を作りました。一つ一つ丁寧に作ることで、是非皆さんに、たくさん募金の協力を呼びかけたいと思う時間となりました。

今回の当番校としての活動は旭農ボランティア局として大きな成長であり、今後も他校と情報交換しながら活動をしていきたいです。



赤い羽根共同募金